

Pro Tools M-Powered 8.0 on Windows

この書類には、Digidesign が推奨する Windows のバージョンが起動する Windows システム上で動作する Pro Tools XP 8.0 に関するユーザー・ガイドの訂正事項、互換性情報、既知の問題、エラー・コード点等が記載されています。最新の互換情報に関しましては Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。

新しいバージョンをインストールする際は、事前に既存の Pro Tools をアンインストールしてください

お使いのコンピュータに以前のバージョンの Pro Tools がインストールされている場合、新しいバージョンの Pro Tools をインストールする前に、旧バージョンをアンインストールする必要があります。Windows のコマンドを実行し、プログラムをアンインストールする事ができます。

Pro Tools をコンピュータ (Windows Vista) からアンインストールするには :

- 1 [スタート] > [コンピュータ] を選択します。
- 2 コンピュータの画面にて [プログラムのアンインストールと変更] をクリックします。
- 3 Pro Tools を選択します。
- 4 [アンインストール] をクリックします。
- 5 画面の指示に従って、Pro Tools を削除します。

Pro Tools をコンピュータ (Windows XP) からアンインストールするには :

- 1 [スタート] > [コントロールパネル] を選択します。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 現在インストールされているプログラムから Digidesign Pro Tool を選択します。
- 4 [変更と削除] ボタンをクリックします。
- 5 画面の指示に従って、Pro Tools を削除します。

インストールに関連した問題

Pro Tools が起動しない。(Item #58531)

ハードウェア・ドライバがインストールされていない、あるいは M-Audio コントロールパネルで入出力が設定されていないと、Pro Tools は起動しません。Pro Tools をインストールする前に M-Audio ドライバをインストールするよう注意してください。ドライバがインストールされている場合は、M-Audio コントロールパネルからアナログか S/PDIF 入出力が有効になるよう設定してください。

Delta Driver コントロール・パネルは、出力フェーダーがデフォルトでは “-Infinity” に設定されているため、“オーディオ出力なし” になっています。(Item #60160)

Delta Driver コントロールパネルでは、初期設定で出力フェーダー・ゲインがなしに設定されていますが、これは出力フェーダーが “-Infinity” に設定されているためです。オーディオが聞こえるようにするには、コントロールパネル内でゲインを上げてください。

互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティー機器等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com/jp) でご確認ください。お使いのユニットのアップデート・ドライバに関しては、M-Audio の Web サイト (www.m-audio.com) をご覧ください。

データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.x は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。Pro Tools のバージョン 6.x で作成されたデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.x の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスしてください。DigiBase データベースのインデックスに関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド*をご覧ください。

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools 7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

FireWire 1814 コントロールパネルを開くとコンピュータがクラッシュ、あるいはブルー・スクリーンになる。(Item #57675)

FireWire 1814 は AGP ビデオ Hardware Acceleration と Write Combining の有効をサポートしません。これらを有効に設定していると、コンピュータのクラッシュを引き起こす可能性があります。コントロールパネルの [画面][設定][詳細設定][トラブルシューティング] より、ハードウェア アクセラレータを“なし”、そして“ライトコンバインを有効にする”のチェックマークを外してください。設定がアップデートされると、クラッシュせずに FireWire 1814 コントロールパネルを開けます。

M-Audio ハードウェアと Sony VAIO との互換性 (Item #58084)

Sony Vaio コンピュータの中には、M-Audio ハードウェア・ドライバとの互換に問題が確認されているものがあります。最新のシステム互換情報に関しては、M-Audio の Web サイトを参照してください。

ワイアレス・ネットワーク・カードと M-Audio ハードウェアとの互換性 (Item #58435)

ワイアレス・ネットワーク・カードと Pro Tools を同時に使用すると、ハードウェアからの出力にノイズが発生する可能性があります。これを回避するために、ワイアレス・ネットワーク・カードは無効に設定してください。

アエロにより HW バッファ・サイズの値が低い状態でエラーが発生する (Item #103563)


Windows Vista のアエロが有効化された状態で、HW バッファ・サイズが 128 以下に設定されているとエラーが発生し Pro Tools の再生ができないことがあります。HW バッファ・サイズを低く設定する必要がある場合は、アエロを無効にしてください。

自動アップデートに関する注意点 (Item #108837)

オーセンティケーションを必要とするプロキシサーバー介している、ソフトウェア・アップデートが有効なインターネット接続を見つけれられません。この問題を回避するには、ソフトウェア・アップデートの存在するマシンをプロキシを介さない状態にするか、プロキシ自体をオーセンティケーションを必要としない形でポート 80 経由での HTTP アクセスを可能とする必要があります。

確認されている問題

ここでは、Pro Tools M-Powered 8.0 の使用時に生じる問題点とその回避方法について記載しています。

 *Pro Tools M-Powered* に対応した *Music Production Toolkit 2* に関する問題点については、*Music Production Toolkit 2* リードミーを参照してください。

Pro Tools

デフォルトのドライブ非断片化作業によりオーディオ・ファイルが破壊される問題 (Vista のみ) (Item #111562)

水曜の午前 12 時に降に Pro Tools が起動しアイドル状態にあると、午前 1 時に Windows Vista が定期メンテナンスの一環である自動デフラグ作業を実行する際にセッションやオーディオ・ファイルを破壊する事があります。この問題を未然に防止する為、Digidesign はこの定期自動デフラグ作業を無効にするか、もしくはその時間帯に Pro Tools が起動していないように注意を払うことをお勧めします。

Vista システムにおいて、外部の FireWire HFS+ ドライブ上の Pro Tools セッションやインストーラを起動する際にダブルクリックを使用することはサポートされていません (Item #98779)

Vista システムにおいて、外部の FireWire HFS+ ドライブ上に配置された Pro Tools セッションやインストーラを起動する際は、そのセッションやインストーラを起動するためにダブルクリックを使用することはできません。HFS+ ドライブ上の Pro Tools セッションを起動するには、最初に Pro Tools を起動して、次に [ファイル] メニューの [セッションを開く] コマンドを使用してセッションを開きます。Pro Tools のインストーラに関しては、インストーラを内蔵ドライブにコピーして、そこから起動してください。

Windows により Pro Tool からの応答がないと、誤ってレポートされる問題 (Vista のみ)

Pro Tools が起動している最中にスプラッシュ画面をクリックすると、Windows Vista がエラーを引き起こし、Pro Tools の応答がないとレポートし始めます。実際には Pro Tools は通常の起動のプロセスにあり、放置する或いはプログラムの応答を待つように促す事によりアプリケーションは正常に起動します。

セッション・テンプレートに I/O 設定、幾つかの初期設定項目、表示設定、ウィンドウ構成が保持される (Item #111605)

Pro Tools のセッション・テンプレートは、そのテンプレートが作成されたシステムに於いて I/O 設定、幾つかの初期設定項目、表示設定、ウィンドウ構成を保持します。この為、テンプレートを基盤とした新規セッションを作成すると、オリジナル・システムの複数のセッション設定値を復元します。これらの設定値は、任意に変更するか、或いは全く異なるセッションやテンプレートが開かれるまで Pro Tools により保持されます。また、これによりテンプレートを使用した後に新規セッションを作成した際にも、テンプレートの設定値が新規セッションに反映されます。

テンプレート作成により保持される設定値は、デフォルトのトラックの高さ、表示設定、ウィンドウのサイズと位置、及び I/O 設定です。特定のテンプレートに対して設定値の変更を行うには、ファイル > テンプレートとして保存 (必ず “システムにテンプレートをインストール” オプションが選択されている事を確認してください) より、変更を施したいテンプレートを選択する必要があります。

Pro Tools 7.4 以下のシステムで作成されたセッションを開く際の注意点 (Item # 106746)

Pro Tools 7.4 以下のシステムで作成されたセッションを Pro Tools 8.0 で開くと、全ての波形のオーバービューが再計算されます。これは Pro Tools の波形オーバービューが 16 ビットへと移行し、古い 8 ビットのオーバービューを再計算する必要があることに起因します。再計算は初回のみ必要となります。

新しくなった波形のオーバービューに関連して発生し得るパフォーマンスの問題 (Item #110041、106801 及び 106577)

Pro Tools 8.0 で波形のオーバービューを再計算するにあたり、幾つかの作業を実行する際に一回限りの問題が発生する可能性があります。再計算が完了するとシステムのパフォーマンスは正常化します。この問題の影響を受ける作業エリア：

過去のセッション (Item #110041) 著しく古いバージョンの Pro Tools で作成されたセッションを開き、いきなりセッションを再生するとエラーが発生し、H/W バッファ。サイズを増加するよう求められたり、トラックの削除或いは RTAS プラグインの削除を促される事があります。多くの場合、これは Pro Tools が背後でセッションに存在する波形のオーバービューを再計算している為に発生します。タスクマネージャにてタスクを一時停止するか、もしくはタスクが完了するのを待つ事によりこの問題を回避する事ができます。波形の再計算が完了すると、この問題は発生しなくなります。

新規作成されたリージョンの再生 (Item #106801 及び 106577) 録音後、または作成するかインポートするかで新規のリージョンを作成した直後に再生を行うと、再生中にドロップが発生する事があります。これは Pro Tools が背後でセッションに存在する波形のオーバービューを再計算している為に発生し、多くの場合は多数の長いリージョンを作成または録音した際にのみ発生します。タスクマネージャにてタスクを一時停止するか、もしくはタスクが完了するのを待つ事によりこの問題を回避する事ができます。波形の再計算が完了すると、再生に対するパフォーマンスは正常に戻ります。

ReWire 経由で Reason を使用するセッションは Pro Tools 8.0 では開けない事があります (Item #111757)

Reason ReWire を含むセッションを開くと次の Reason エラーが発生する場合があります：“Engine not responding. Please check your ReWire host.” この問題を回避するには、まず Pro Tools を起動し、セッションを新規作成します。その上で、適当なトラックに Reason ReWire をインサートします。Reason を開いたままセッションを閉じます。そして問題となった Reason の使用されたセッションを開きます。

Vista システムで Start + L を実行すると、「カーソルを左へナッジ」ではなく、「アドミンユーザー切り替え」プロンプトが起動する (Item #98665)

Vista システムで Start + L を実行すると、「カーソルを左へナッジ」ではなく、「アドミンユーザー切り替え」プロンプトが起動します。この場合は、キーボード・フォーカス (A...Z) をオンにして、L キーを使用してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力にソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない。(Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントによっては、音も鳴らず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、全てのオーディオ・ファイルをハイライト表示して、[リージョン]>[ループ解除]>[フラットに]を実行した後で、セッションを Pro Tools の下位バージョンで保存します。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが、正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンが正しく再生されます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

Windows Media Player を使用中に ASIO クライアントの使用 (Item #60117)

M-Audio デバイスから Windows Media Player を使用してオーディオを再生している場合、ASIO クライアントを起動することはできません。ASIO クライアントと Windows Media Player の両方からオーディオを再生するには、すべてのアプリケーションを終了して ASIO クライアントを最初に立ち上げます。

MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフライングホーファの Codec 制限によります。

QuickTime がインストールされていない状態で MP3 もしくは MP4 ファイルをインポートする。(Item #62994)

QuickTime が存在しないシステムで、Pro Tools の使用後に QuickTime をインストールされると、Pro Tools が QuickTime のファイルを不明なファイルとして索引する場合があります。これらファイルは、QuickTime がインストールされた後も不明なファイルとして残ります。この問題が発生した場合は Digidesign Database ファイルを削除するか、もしくは QT ファイルで不明なファイルとなっている物を選択し、選択項目の Database をアップデートしてください。

反対に、QuickTime が存在するシステムにて Pro Tools が使用され、その後に QuickTime がアンインストールされると、QuickTime ファイルが Pro Tools には読み取りできないファイルとして索引される事があります。この問題が発生した場合、全てのデータベース・ファイルを削除して、再度実行してください。

Kensington マウス及びドライバの問題

Pro Tools で Kensington マウスを使用すると以下の問題が発生することがあります：

- ・ズームする際に Alt キーが動作しなくなる。(Item #61823)
- ・Shift キーが動作しなくなる。(Item #62376)
- ・Control キーが動作しなくなる。(Items #61830, #62066, #61980, #61988, #62348, and #62559)

スタックしたキーを解除するために、再度キーを押します。問題が継続する場合は、Kensington ドライバを削除します。

起動時の Windows セキュリティ・アラート (Item #62060)

Pro Tools の起動中に以下の内容のダイアログが表示されることがあります：“Windows Security Alert. “Windows セキュリティ・アラート：コンピュータを保護するために、Windows Firewall がこのプログラムのいくつかの機能をブロックしました。”これは予定内の動作です。Pro Tools パフォーマンスには影響しませんので、このダイアログは棄却してください。

Pro Tools は QuickTime ムービーのサラウンド・オーディオには対応していません (Item #67350, 67351, 67353)

QuickTime 7 では、QuickTime ムービーを使用する際のサラウンド・オーディオの機能が追加されました。現在の所、Pro Tools は 3 チャンネル以上のオーディオ持つ QuickTime ムービーには対応していません。Pro Tools は、マルチチャンネルの QuickTime ムービーをインポートする事も、マルチチャンネルの QuickTime ムービーとしてバウンスすることもできません。また同様に、マルチチャンネルの QuickTime ムービーはワークスペース・ブラウザでは認識されません。

Pro Tools が “DAE Loaded” メッセージまでロードするが、起動しない。(Item #56701)

M-Audio コントロールパネル内で、すべての入出力が無効に設定されていると、Pro Tools は起動しません。Pro Tools を起動する前に M-Audio コントロールパネルから S/PDIF かアナログの入出力が有効になっていることを確認してください。

M-Audio デバイスを取り外すと Pro Tools がフリーズする。(Item #58951, #95255)

Pro Tools M-Powered の起動中に M-Audio デバイスを取り外すと、セッションを保存することはできますが、Pro Tools は終了中にフリーズします。Pro Tools M-Powered の起動中は M-Audio デバイスを取り外さないでください。もし何らかの理由によりデバイスが断絶されたとしても、現在のセッションは通常通り保存されます。しかしその後で Pro Tools は、Alt+F4 または Control+Alt+Delete を使用して強制終了する必要があります。終了後、再度 M-Audio デバイスが接続されれば Pro Tools M-Powered を起動することができます。この場合は、コンピュータを再起動する必要はありません。

スクリーンセーバーによって M-Audio FireWire ハードウェア上の出力ゲインが無効になる。(Item #59203)

M-Audio FireWire 410 を使用した Pro Tools M-Powered の起動中にスクリーンセーバーがアクティブになっていると、FireWire 410 の出力ゲインコントロールが効かなくなります。出力ゲインは、M-Audio FireWire コントロールパネルから操作します。この問題を回避するために、Pro Tools M-Powered の使用中は、スクリーンセーバーを無効にすることを推奨します。

128 バッファサイズで設定された 96 kHz セッションでレコーディング中、オーディオにポップノイズやクリックノイズが入る、あるいは DAE エラーが発生する。(Items #57617 及び #57614)

2 GHz あるいはそれ以下の速度の CPU を備えたコンピュータ上で、サンプルレートが 96 kHz、ハードウェア・バッファサイズが 128 に設定されたセッションをレコーディング / プレイバックすると、ポップノイズやクリックノイズが発生する可能性があります。問題が解決しない場合は、サンプルレートを下げてください。

セッションのサンプルレートを変更すると、セッションが通常より遅い、あるいは速いスピードで再生する。(Item #56697)

M-Audio コントロールパネルからセッションのサンプルレートを変更すると、オーディオが不適切なスピードでプレイバックされます。従って、その後はデータを録音できなくなります。セッションを作成する前に、M-Audio コントロールパネルでサンプルレートを設定し、それ以降は変更しないでください。

外部 Sync がサンプルレートを変更すると、FireWire 1814 ドライバが現在のサンプルレートを失う。(Item #58741)

FireWire 1814 インターフェース上で、外部 Sync がサンプルレートを変更すると、M-Audio ハードウェア・ドライバは現在のサンプルレートを失う可能性があります。例えば、サンプルレートが 48 kHz から 44.1 kHz に、あるいは S/PDIF 出力を備えた外部デバイス上の 48 kHz に切り替わった後で、48 kHz のセッションを開くと、「現在のプレイバックエンジンは 44.1 kHz でのサンプリングレートをサポートしていません」 “The current playback engine does not support a sample rate of 44.1kHz” と表示されます。この場合、外部デバイスのサンプルレートを安定させ、(M-Audio ドライバを完全にリリースのために) Pro Tools を閉じて、その後で Pro Tools を再度立ち上げてセッションを開きます。

デバイスが S/PDIF 経由で外部デバイスにロックされ、サンプルレートが現状より高いレートに変更されると、M-Audio FireWire デバイスが完全にリセット、あるいはフリーズする。(Item #59481)

M-Audio デバイスが S/PDIF 経由で外部デバイスにロックしている場合、Pro Tools M-Powered を開いた状態で外部のサンプリングレートを 44.1k/48k から 88.2k/96k へ変更すると、FireWire デバイスが完全にリセットされ、Pro Tools M-Powered がまったく反応しなくなります。サンプルレートは Pro Tools M-Powered を起動する前に変更してください。

エラー・メッセージ “指定されたファイルを発見できないため作業を完了できません。” (Items #50454 及び #50457)

このメッセージは、管理者権限のないアカウントにログイン中に、以下のいずれかを行うと現れます：

- ・ デストラクティブ AudioSuite プロセッシングの実行
- ・ ワークスペース・ブラウザ内でのファイル・ロック

これはオーディオ・ファイルのアクセス権が読み取り専用になっているために発生するエラーと考えられます。これを回避するには、Windows XP の管理者レベルでのアカウントへログインし、オーディオ・ファイルのアクセス権をフルアクセスの状態に変更する必要があります。管理者レベルでのアカウントへログインする権限が無い場合は、コンピューターの管理者に連絡するか、Pro Tools 上で [ファイル]>[セッションのコピーを保存] を行い、セッションに含まれる全てのオーディオ・ファイルのコピーを保存する必要があります。

“アクセスが拒否されたため [ディスクへバウンス] コマンドを終了できませんでした” という旨のエラー・メッセージ (Item #50488)

管理者レベル以外のアカウントでログインしている際に、SCSI ドライブのルート・レベルへ「ディスクにバウンス」を行うと以下のエラーが発生する場合があります。“Could not complete the bounce to disk command because Access is denied.” このエラーは、Windows XP においては、管理者レベルでのアカウント以外にログインした状態ではルート・レベルにいかなるファイルの作成もできない事に起因しています。この問題を回避するには、サブディレクトリを作成し、その新たに作成されたディレクトリにバウンスをする必要があります。

管理者レベルのアカウント上以外でのオーバービューの再計算 (Item #50537)

管理者レベルでのアカウント以外にログインした状態でオーディオ・ファイルのオーバービューの再計算を行うと、Pro Tools のタスクウィンドウに以下のエラーが表示されます。「アクセスが拒否されました」“Access denied.” (5)・これはオーディオ・ファイルのアクセス権が読み取り専用になっているがために発生するエラーと考えられます。

これを回避するには、Windows XP の管理者レベルでのアカウントへログインし、オーディオ・ファイルのアクセス権をフルアクセスの状態に変更する必要があります。

管理者レベルでのアカウントへログインする権限が無い場合は、コンピュータの管理者に連絡をするか、Pro Tools 上で [セッションのコピーを保存] を行い、セッションに含まれる全てのオーディオ・ファイルのコピーを保存する必要があります。

管理者レベル以下のアカウントからセッションの保存コマンドを実行する (Item #53335)

管理者レベル以外のアカウントにログインした状態で、CD-ROM (もしくは外付けのハードディスク) からシステムへコピーしたセッションを開き、Pro Tools がセッションの保存を必要とするコマンドを実行しようとするアクセスが拒否されます。そのセッションを [別名で保存] もしくは [セッションのコピーを保存] します。

[セッションデータをインポート] からトラックをインポートすると [Undo (元に戻す)] の順列がクリアされてしまう。(Item #51775)

リファレンスガイドにも記載されている通り、「セッションデータをインポート」よりトラックをインポートすると Undo (元に戻す) の順列がすべてクリアされてしまいます。メインのプレイリストオプションが [インポート - 既存のプレイリストを置き換える] に設定されていると Undo (元に戻す) の順列がクリアされてしまいます。この設定が [インポート - 新規のプレイリストを既存に重ねる] もしくは [インポートしない] に設定されていると Undo (元に戻す) の順列は保たれます。

シャトル・ロック・コマンドが無視されることがあります (Item # 47155)

[シャトルロック] コマンドはまれに無視されることがあります。問題が起きた際には、再度トランスポートのポップアップをクリックすると元にもどります。

オートメーション書き込み中のオートメーション画面のアップデート (Item #111105)

ボリュームやパンなどに対するオートメーションを書き込む際に、その書き込み中のオートメーションに合致するオートメーション画面のボタンがオートメーションの書き込み中である表示をしない問題が発生します。この為、ミックスまたは編集画面にて実際にオートメーションの書き込みが実行されている事を確認する必要があります。

ファイル・マネージメント

Mac でフォーマットされた Firewire ハードディスクを接続すると、起動時にシステムがクラッシュします。(Item #45288)

MacDrive のインストールした後は、必ず Windows が起動し終わってから Mac でフォーマットされた FireWire デバイスをマウントしてください。Windows の再起動中に Mac でフォーマットされた Firewire ドライブを接続すると、システムがクラッシュします。

Pro Tools のワークスペースからドライブをアンマウントした際に起きる共有情報の紛失 (Item #46273)

共有フォルダや特定のドライブに対して関係していた情報は、Pro Tools 内でワークスペースからアンマウントすることにより紛失してしまいます。

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと見つからないファイルがでます。(Item #37572)

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと、いくつかのファイルが見つからないと表示されます。この場合、再リンクウィンドウにて「ファイル名」と「長さ」によって再リンクできます。「フォーマットの一一致」ではリンクが見つからない場合があります。

リード・オンリー・セッション再生時の “Access Violation”

CD-ROM から復元して間もないセッションで再生ボタンを押すと、“Access Violation” アラートが表示される場合があります。これは、セッション (およびそのオーディオ・ファイル) が読み取り専用になっている場合に生じます。読み取り専用を解除する方法に関しては、Windows のヘルプを参照してください。

MIDI

Sibelius へ送信コマンドを使用する際に Sibelius が起動しない問題 (Item #110405)

サポートされる Sibelius パッケージ (Sibelius、Sibelius First もしくは Sibelius Student) をインストールした直後に、Pro Tools にて Sibelius に送信を実行すると、Sibelius がインストールされていないと通告されます。この問題を回避するには、事前に Sibelius を手動で起動させ、スコア・ドキュメントを作成する必要があります。この作業は初回インストール時のみ行う必要があり、一度この作業を行った後は、Sibelius へ送信コマンドは正常に機能します。

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するよう設定された MIDI トラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われます (Item #81666)

複数のキー (調) と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン / オフ切り替えると補正できます。

再生時にユニットのボリュームノブの調整を行う事により MIDI のパフォーマンスが左右される問題 (FireWire 1814 限定) (Item #58159)

プレイバック中に M-Audio FireWire 1814 のボリューム・レベルを変更すると、記録されている MIDI インフォメーションに遅延が生じます。この問題を回避するには、Pro Tools を終了し、M-Audio コントロールパネルを起動して、出力レベルを 0 dB もしくは必要に応じたレベルに設定し、Link ボタンを解除する必要があります。Pro Tools 上ではマスターフェーダー (もしくはそれぞれのトラックのフェーダー) が出力のコントロールとなります。

MIDI の入力及び出力の選択肢が画面上に全て表示されていない。 (Item #53611)

画面の解像度が 1024x768 に設定されている場合、大きな MIDI コンフィギュレーションを使用すると MIDI 入出力ポップアップ・ダイアログに全ての MIDI 入出力が表示されない場合があります。この問題を回避するには解像度の値をより大きい数値に設定し直してください。

MIDI 及びインストゥルメント・トラックに利用できない MIDI 入力パスが、誤って表示される (Item #111221)

該当するデバイスやパスが実際にはシステム上に存在しないにも関わらず、セッションを開いた際に、MIDI 及びインストゥルメント・トラックの MIDI 入力に表示されるデバイス名またはパス名が、イタリック及びグレーアウト表示 $\mathcal{C}\mathcal{S}\mathcal{C}\mathcal{f}\mathcal{C}\mathcal{C}\mathcal{C}\mathcal{C}\mathcal{C}$ 場合があります。

エラスティック・オーディオ

Pro Tools 8.0 でエラスティック・オーディオのアルゴリズムを変更する際の問題 (Item #109141)

Pro Tools 8.0 では、エラスティック・オーディオの信号処理に幾つかの変更点があります。この効用として、Polyphonic アルゴリズムでオーディオのタイム・ワープを実行する際のイベントの時間的正確性の向上を感知することができます。また、Rhythmic アルゴリズム下でタイム・ストレッチを実行した際の低周波数帯域のサステインの滑らかさを実感することもできます。X-Form アルゴリズムに対するアップグレードも施されており、polyphonic のオーディオ・ソースに対しより高いレベルでのピッチの一貫性を提供します。これらの変更は音響的向上を目的としていますが、エラスティック・オーディオのプロセスを含むセッションは、Pro Tools 8.0 での再生音と Pro Tools 7.4 での再生音の間には実質的な差異が存在する事を留意する必要があります。Pro Tools 7.4 でのエラスティック・オーディオと同質の音声を再現するには、Elastic Audio バージョン 8.0 とバージョン 7.4 とを入れ替える必要があります。その場合、バージョン 7.4 ではエラスティック・ピッチがサポートされないことにご注意ください。

Pro Tools 7.4 と 8.0 とで異なるトランジェントとワープのマーカーが音質に及ぼす影響 (Item #105159)

エラスティック・オーディオのアルゴリズムである Polyphonic と Rhythmic は両方共に、最高のフィデリティーとタイミングの正確性の実現の為、トランジェントの解析を肝とします。イベント感度を低く設定したり、解析やワープのマーカーを削減するとエラスティック・リージョンの音質やタイミングに影響を及ぼす可能性があります。また、解析やワープのマーカーが極度に多いと、同様に音質へ影響を及ぼす恐れがあります。最良の音質獲得には、オーディオリージョン内の音楽的なイベントに対し、合理的な形で解析マーカーが用いられている事が重要です。また、Pro Tools 8.0 は Pro Tools 7.4 と比較すると、最良の音質実現に向け、より Polyphonic アルゴリズムに頼っていると言えます。

Polyphonic エラスティック・オーディオを用いると音が震えて聞こえる現象 (Item #103038 and #108845)

状況によっては、Polyphonic エラスティック・オーディオで処理された音が不必要に震えて聞こえる事があります。もしこのような問題が発生した場合は、Polyphonic エラスティック・オーディオのプラグイン画面にある Window 調節ノブを使用し、音の振るえがなくなるように調節してください。セッションの Window 値が Pro Tools 7.4.x のデフォルト値である 30 ms である場合は、40 ms に設定し直すことをお勧めします。因みに、Pro Tools 8.0 でのデフォルト値は 40 ms となっております。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools にはヴァリスピードの波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングがリアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするかの予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

ワークスペース・ブラウザ内で、特定ファイルのエラスティック分析計算 / クリアができない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.WAV または .AIF)、Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀にあります。ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合、ファイルが実際に非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認するために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションへインポートすればエラスティック化することもできます。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムック・アルゴリズムをご使用ください。

エラスティック・オーディオのピッチ処理を行う際の位相の一貫性の保持 (Item #106002)

トラックに於いてエラスティック・オーディオのピッチ処理が有効になっている状況下で、Polyphonic、Rhythmic もしくは X-Form から Monophonic または Varispeed へ変更すると位相の一貫性に支障をきたす事があります。位相に一貫性を持たせるには、一度トラックに設定されたエラスティック・オーディオのピッチ処理をクリアし、その上で Monophonic または Varispeed アルゴリズムを選択する必要があります。

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[初期設定] 内の [プロセッシング] ページにある [エラスティック・オーディオ] > [デフォルトインプットゲイン] は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の [コンテキスト視聴] がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の [デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる] がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオのトラックをインポートすると、タイムベースが誤って表示される問題 (Item #111299)

既存のトラックに対しエラスティック・オーディオのトラックをインポートすると、実際とは逆のタイムベースがそのトラックに表示されます。この問題が発生した場合は、該当するトラックのタイムベースを手動で変更する必要があります。

プレイリスト上にあるエラスティック・オーディオのリージョンがレンダーされない問題 (Item #111882)

プレイリスト表示では、オーディオ処理をリアルタイムからレンダーへ変更してもプレイリスト上にあるエラスティック・オーディオのリージョンがレンダー（波形がオフライン表示）されません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に [エラスティック・オーディオ 有効] には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダーされます。これは、リージョン・グループにワープ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[エラスティック・オーディオ 有効] に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。


[ソース・メディアから統合] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ソース・メディアからコピー] を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックへインポートしてください。

コンテキストでプレビューが有効な状態で CAF もしくは MP3 から変換されたオーディオファイルのタイミングが正確でない問題 (Item: 111064)

コンテキストでプレビューが有効な状態で CAF もしくは MP3 から変換されたオーディオファイルはタイミングの不正確性（オーディオ内の隙間とリージョン内のトランジエントの非同期）の原因となる事があります。尚、これは圧縮ファイル形式に特有の問題です。

プラグイン

 各プラグイン固有の問題については *Digidesign Plug-ins* リードミーをお読みください。

AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

リージョン・リスト内のとリージョン・グループに対しては、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照”を選択して、“プレイリストに使用”を選択すると、AudioSuite プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuite プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照”にセットされていると、Pro Tools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません”というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ”ユニットとして認識されないために生じます。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・リスト・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・リスト・メニューから [再グループ] を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は [修正] を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は [コピー] を選択します。

別プラットフォームで作成されたセッションのソフトウェア・シンセサイザ・プラグインへの MIDI 出力のリストがイタリック表示になる (Item #54173)

別プラットフォームで作成されたセッションでは、出力の再アサインを行わない限りは、ソフトウェア・シンセサイザー・プラグインへの MIDI 出力のリストがイタリック表示になります。

期限切れのデモ版プラグイン

デモ期間が終了したプラグインを使用すると、Pro Tools M-Powered 上で “Illegal Instruction Attempted” エラーが生じます。この問題を解決するには、デモ期間が終了したプラグインを、プラグイン・フォルダから削除してください。

12 アルファベット文字以上の NTFS ブート・ドライブ名で iLok プラグインの認証に問題が生じる。

NTFS フォーマットのドライブを使用し、そのドライブ名がアルファベットで 12 文字以上の場合、InterLok プラグインと M-Powered の認証に問題が生じます。この問題を回避するには、NTFS ドライブ名を 12 文字未満に変更してから Pro Tools M-Powered を起動してください。変更せずに Pro Tools M-Powered を起動すると、アラートが表示されます。

Pro Tools でサポートされないファイル・タイプに対するプラグイン検索と再リンク (Item #111704)

プラグインが Pro Tools では元来サポートされないファイル形式 (例えば REX ファイル) に対してリンクを失う為、検索と再リンクとトリガーされない問題が発生しております。プラグインの検索と再リンク機能を保つには、Pro Tools でサポートされるファイル形式がプラグインに対して使用される必要があります。

ビデオ

4:3 に設定された Pro Tools でスタンダード・デフィニッションの QuickTime ムービーが 16:9 Anamorphic Play Back としてレンダーされる問題 (Item #109076)

Pro Tools が 4:3 もしくは 720x486 の解像度に設定されていると、スタンダード・デフィニッションの QuickTime ムービーがスケールサイズ 853x480 の 16:9 Anamorphic でレンダーされてしまいます。この問題は、QuickTime ムービーのスケールサイズ特性が Pro Tools に無視される事に起因します。720x486 ピクセルの範囲内でムービーをレンダーする事によりこの問題を回避する事が可能です。

ビデオ再生のパフォーマンス

[ムービー] > [ムービー再生の優先度 - 最高] にチェックが入っている場合、メニュー上でクリックするとビデオの再生に影響があります。

ローカライゼーション一般

MacDrive バージョン 6 を使用し他のプラットフォームからセッションデータを開く際の再リンクについて (Item #65528)

MacDrive バージョン 6 を使用した場合、“Normal Use” モードにて使用した場合、拡張子が削除されてしまいます。- “Backup/File Transfer” モードを使用する事で、拡張子が削除されてしまう問題を回避する事ができます。但し、“Backup/File Transfer” モードを使用した場合、“International Use” モードに比べ、日本語環境下における使用上、問題が起こる可能性があります。“International Use” モードもまた、拡張子が削除されてしまいます、よって日本語の使用を停止する、或いは拡張子が削除された状態での使用を継続してください。MacDrive バージョン 5 迄はこれらのオプションは個別に設定出来ましたが、バージョン 6 からこの設定が統合されてしまいました。拡張子が削除された場合には、再リンクの条件を ID に絞って検索を必要に応じて行ってください、但しこれはワークアラウンドになります。

Dell 650 上の中国語版 Windows XP で M-Powered USB デバイスが接続されていると Pro Tools M-Powered が起動しない問題点 (Item #72094)

Dell 650 上の中国語版 Windows XP で、M-Powered USB デバイス用のドライバと Dell 650 のオリジナルのサウンドドライバが混在していると、Pro Tools M-Powered が起動に失敗します。Dell 650 のオリジナルのサウンドドライバを削除し、M-Powered USB デバイスが唯一のサウンドドライバになる事により、この問題を回避することができます。

英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスをインポートすると、文字化けや再リンク不能を引き起こす
(Items #95851, #95857, #96279)

Mac ベースの Pro Tools 7.3.1 システム (またはそれ以前) から、英語以外の文字を持つファイルまたはリージョンを含んだ AAF/OMF シーケンスをエクスポートすると、Avid Media Composer、XP ベースの Pro Tools システムまたは Pro Tools 7.4 システム (Windows または Mac) へ正しくインポートできない場合があります。逆に、全ての Pro Tools 7.4 (またはそれ以降) システムからエクスポートされた、英語以外の文字を持つ AAF/OMF シーケンスは、Mac ベースの Pro Tools 7..3,1(またはそれ以前) システムへ、正しくインポートできない可能性があります。ファイルをリンクするためには、[手動で検索、再リンク] を選択して、[ファイル ID で見つける] 以外のオプションを全て外します。ここで表示されるリージョン名は文字化けしている可能性があります。

エラー・メッセージ

S/PDIF 9-10 インพุットからオーディオ・レコーディングした後、Pro Tools 起動時に発生する DAE Error -6006 (Item #58585)

M-Audio デバイスの FireWire ドライバが起動に失敗すると、Pro Tools の起動時に DAE エラーの -6006 が発生します。この場合、FireWire デバイスの電源を切って 15 秒待ち、再度電源を入れてさらに 15 秒待ち、その後で Pro Tools を立ち上げてください。

再生中の -6031 エラー (Item #32637)

複雑な MIDI やオートメーション・データを持つセッションを再生中に -6031 というエラーが生じたら、再生を一旦止め、セッションを保存し閉じてください。そして Pro Tools を終了してから再起動し、そのセッションを再び開いて作業してください。

DAE Error -9131

Pro Tools M-Powered 7.0 では、UNIX File System (UFS) フォーマット・ドライブへの録音/再生はできません。

DAE Error -9132

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ディスクへバウンズ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してみてください。

Pro Tools ガイドの修正

新機能ガイド

Part Number 9320-59102-00 REV A 11/08

下記は *Pro Tools LE* 及び *M-Powered 8.0* 新機能ガイドに対する修正と補完です。

リージョンを時間ロックする

Pro Tools LE 及び *M-Powered 8.0* 新機能ガイドの 41 ページにはリージョンを時間ロックする為のキーボード・ショートカットとして、誤って「Shift+T を押すと、選択したリージョンを 時間ロックまたはロック解除できます」と記載されております。

訂正:

実際のショートカットは、「Alt+Start+L (Windows) もしくは Option+Control+L (Mac) を押すと、選択したリージョンを 時間ロックまたはロック解除できます」となります。